

横須賀城(松尾城, 両頭城) (国史跡) (掛川市横須賀)

横須賀城（よこすかじょう）は、遠江国城東郡横須賀（静岡県掛川市横須賀）に戦国時代から江戸時代にあった城。平城。徳川家康は武田氏の高天神城を締め付ける付城群の中核として、大須賀康高に命じて築いた城郭である。大須賀家2代の後、渡瀬家1代、有馬家1代、その後、再び大須賀家2代となるが除封され、能見（松平）家2代、井上家2代、本多家1代とめまぐるしく藩主が代わり、西尾忠成が2万5千石で入封し、以後7代をもって明治維新を迎える。

西尾家歴代の藩主のなかで忠尚は名君の誉れ高く、若年寄を勤め5千石加増され、都合3万5千石になり、老中も勤めている。

横須賀城の特徴は他に類を見ない天竜川より運ばれた玉石垣を用いた築城法である。天守閣は三層四階であった。宝永年間に起こった大地震のため湊が隆起してしまい、用水路を作って凌いだ。

石垣、堀、土塁等が残り、現在公園として整備されている。国の史跡に指定されている。また、不開門が城跡の北西にある撰要寺に、町番所が市役所大須賀支所北側に、それぞれ移築され現存している。これらの移築建造物は、掛川市文化財に指定されている。このほか、袋井市の油山寺には旧御殿の一部が移築されている。

Wikipedia による

